

リゾート
桜の里蔵都
茨城県桜川市

羽鳥道

万葉の里・羽鳥

「将門記」によると、承平7年(937年)に平将門が攻め入った場所を、服織(はたおり、はとり)の宿、としている。これが現在の羽鳥地区である。羽鳥には、真壁と筑波山の男体山を結ぶ羽鳥道があり、古くは修験者の山岳修業の道であったが、江戸時代後期から一般庶民に広まった社寺参詣の信仰道となった。道沿いには当時の面影を偲ばせる野仏や石碑などが数多く残っている。また、羽鳥には、春と秋に万葉びとが集まり歌を詠み交わして踊る「かがい」の伝承地があり、万葉の里・羽鳥の奥深さを物語っている。



大滝不動

自然石の上に安置された不動尊は登山道を見下ろすように据えられている。登山者の無事安全を祈願した七不動の一つである。



男の川水分神(みくまりのかみ)
昭和48年、山沢の水が絶え間なく公平に分配されることを祈願して建てられた。



石鳥居

安永5年(1776年)、信州高遠の石工原宣智がつくり奉納した石鳥居。羽鳥道に登拝道の風格を添えている。



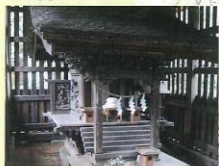
小滝不動

羽鳥地区内には「六井七木七不動」があったとされるが、その七不動の一つである。元禄頃の造立といわれ、登拝道を守護している。



羽鳥八坂神社

大同2年(807年)創設と伝えられている。社殿は江戸時代の建立とされ、全面に見事な彫刻が施されている。



観音堂

美しい竹林の奥に静かに佇む観音堂。本尊の伝来は観音(県指定文化財)は鎌倉時代の制作で、地元では八つ手観音と呼ばれ親しまれている。



歌姫(うたづめ)明神

羽鳥集落の西側の小高い丘にありこの地で「かがい」が行われたという伝承が残る。



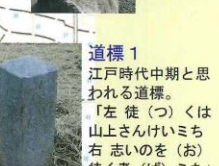
羽鳥天神塚古墳

菅原道真の遺骨の一部を、三男の景行が埋葬した伝説がある古墳。筑波山を借景に千年の歴史を今に伝える。



道標2

大正11年に立てられた道標。「筑波山登山道」と刻みである。



道標1

江戸時代中期と思われる道標。「左徒(つ)くは山上さんけい(お)右志い(お)徒く(ば)ミち」と刻みである。



● 全国緑化行事発祥之地
昭和9年、日本で初めての植樹祭がこの地で行われた。

羽鳥周辺で詠まれた万葉集のうた
筑波嶺に背向に見ゆる葦穂山
悪しかる智もさね見えなくに
男の神に雲立ちのほり時雨ふり
濡れ通るもわれ帰らぬや
筑波嶺の堀廻の田井に秋田刈る
妹がり遣らむ黄葉手折らな
きはつこの岡のくみらわれ摘めど
籠にも満たなふせなとつまさね